

予算審査特別委員会

議案第21号・令和7年度白石市一般会計予算から議案第27号・令和7年度白石市病院事業会計予算までの計7議案について、定例会4日目(2月21日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・四竈英夫、副委員長・高子秀明)は、3月3日・4日の2日間にわたり審査を行い、全ての議案について、採決の結果、全会致で原案のとおり可決しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

◎シティプロモーション事業

【質疑】業務委託の内容と実施時期は。

【答弁】観光・特産品などの資源をインターネットやSNSを通じて広く発信し、市の魅力度や認知度の向上を図るとともに、ふるさと納税制度の活用を促すことにより、市内事業者の売り上げ向上やふるさと納税の

収入増加を図ろうとするものである。

市公式ホームページのふるさと納税サイトの開設を早期に進めるとともに、寄付が集中する11月・12月の駆け込み前に、効果的な広告が展開できるように進めていく。

◎集落支援員事業

【質疑】事業の目的と485万円の使途、コーディネーターの役割と選定、モデル地区の選定と期待される効果は。

【答弁】国の制度を活用し、まち

づくり協議会への委託事業として「地域づくりコーディネーター」を設置、地域住民との話し合いを行いながら新たな取り組みにチャレンジしていくことを目的としている。

モデル地区に斎川まちづくり協議会を想定している。斎川地区は、地区計画を最初に策定し、令和元年度、国の優良公民館表彰で「最優秀館」に輝き、日本一の公民館となった後も新たな取り組みに対して意欲的であり、実現の可能性と他地区へのプラス作用も期待できる。

委託料に、1名分の人件費と厚生費、事業費合計485万円を見込んでいる。コーディネーターの役割として、国は「集落点検の実施」「集落のあり方に関する話し合いの促進」「地域の実情に応じた集落の維持活性化対策」を掲げている。まちづくり協議会において候補者の選考を行い、市へ報告をもらうことを想定している。

◎甲冑のまち事業

【質疑】事業のねらいとその効果は。

【答弁】白石城、城主片倉小十郎公といった歴史的資源を最大限に活用し、甲冑をはじめとする戦国時代をモチーフとした雰囲気づくりにより、歴史に興味・関心のある方や外国人観光客を呼び込み、交流人口の拡大につなげようとするものである。

特に「鬼小十郎まつり」には、昨年約8千人が来場し、市内業者も多く出店。まつり会場や中心市街地は大変賑わい、活気ある地域づくりが図られた。また、エキストラ60名のうち、約半数が県外からの参加者で、まつり当日と3回の練習会の宿泊や飲食の利用があった。

民生費

◎権利擁護支援体制整備事業

【質疑】中核機関の概要は。

【答弁】国の「成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、権利擁護を必要とする方が、必要なときに適切な支援につながるよう、地域で支える体制を構築する地域連携ネットワークの中心となる機関で、「白石

市権利擁護サポートセンター」の名称で設置するものである。

◎生きがいデイサービス事業

【質疑】事業の詳細は。

【答弁】要介護状態の予防を目的に、「白石温泉薬師の湯」と「ホワイトキューブ」の2カ所を実施するデイサービス事業である。

要介護認定等に該当しない65歳以上の高齢者を対象に、生活指導やレクリエーション、軽スポーツ活動、昼食等のサービスを行なっている。

利用者負担は、1回の利用につき千円、週1回、月4回利用を基本とし、2施設を週替わりで交互に利用いただいている。

衛生費

◎出産・子育て応援交付金事業

【質疑】事業の詳細は。

【答弁】出産応援交付金・子育て応援交付金として、各5万円を給付し、経済的な子育て支援